会　議　録

会 議 の 名 称　：　第3回向日市まちづくり審議会
会 議 の 議 題　：　第2次向日市都市計画マスタープランの改定について
会議の開催日時　：　平成21年3月26日(水)午後2時から午後4時40分
会議の開催場所　：　向日市役所　3階　大会議室
会議の公開の可否：　公開
傍聴者数　：　傍聴希望者なし
出席委員　：　7名
宗田会長･岡委員･山口委員･金田委員･岡﨑委員･宇野委員･和田委員
配付資料　：　別添、資料のとおり
審議等の内容　：　下記の審議録のとおり

議　事　録(概要)

1　開　会

2　議　事

(1)「第2次向日市都市計画マスタープランの改定について」

検討資料により事務局から説明を行い、意見交換が行われた。

【制定の趣旨】

宗田会長

それでは、今日の審議に入りたいと思います。事務局から向日市都市計画マスタープランの改定案について説明をお願いします。

事務局

三浦都市計画課長より前回の審議会において、改定案の第1章から第3章について各委員より意見のあった点について修正した内容について説明

宗田会長

前回、ここで議論したことが概ね盛り込まれていると思いますが、継続して審議して頂きたいことは、拠点と軸とゾーンエリアの設定ですが、こういう分け方でいいか、こういうテーマ設定でよいか、今日の会議の最後には、この部分をどうするか結論を出したいと思います。これを中心の論点としますが、それ以外のことでお気づきの点があればお願いします。

最初は、3ページの人口構造の変化はこれで良いとしますが、地方分権が進展するから、限られた財源を有効に使い、とあって、さらに高度化･多様化する住民ニーズに的確に対応していくため、市民と協働のもと、とあるが、分権が進むと自治体･向日市の政策領域が広がる可能性がある。分権が進んできて、向日市の役割が増えてくるだろう。多様化してくる市民ニーズに対し、今までの都市計画マスタープランとは違う、複雑な都市計画マスタープランを考えていく必要があることを書いておいてはどうか。

あと、5ページの全国で4番目の西日本で最もコンパクトな･･とあるが、少しわかりにくいので、全国で番目に小さく、西日本では最もコンパクトな都市です。というぐらいの記述がわかりやすいのでは。

次は、12ページですが、先日の社会資本整備審議会で登場した言葉には、演出という言葉が使われている。なぜ、演出かというと、これからは、ある程度整備された都市という舞台を使って、住民･企業･NPO等の多様な役者の参加を促し、彼らが生き生きと活躍できるように都市を演出していくことが求められる。とある。歴史文化遺産をはじめとする、地域の個性を活かしたと今まで言っていたのを、都市の個性を活かすのをもっと、積極的に演出していこうと言うこと。歴史とか、自然とか、文化とかを未来に向かって活かすのではなく、こういう風に演出したら、向日市らしいものが考えられていくのではないか。

歴史文化遺産を活かすということが、建物を保存することではなく、どう活用するかということ。

歴史文化と活用の方法の組み合わせの最もいいものを演出すること。

地域の個性を演出するようなことを言っている。

岡　委員

今、守っているだけでは守ろうとしている地域の歴史とまちづくりの接点がない。まちづくりに活かすと言われても何なのか、判らない。

金田委員

置く場所が演出するというところでよいが、それ自体が抽象的な言葉で難しい。

和田委員

1ページのところで、京都都市計画都市計画区域の整備とあるが、都市計画がダブっていないか。

三浦課長

向日市は、京都市･長岡京市･大山崎町･向日市を含めた区域が京都都市計画区域となっている。

その整備開発保全方針が策定されている区域を言っている。

和田委員

6ページの人口流出の数はどういう数値となっているのか。

三浦課長

一番下の表は一日あたりの流入･流出数を表している、昼夜間の人口の流入･流出を表している。

転入･転出ではない。

宗田会長

戻りますが、12･13ページのまちづくりの基本的課題について、もう少し詰めたいと思います。

岡　委員

4の具体的な課題であるが、何々が必要であると書いてあるが、まちづくりの基本的課題というのが、これから先もっと必要と考えるのか、問題があるから書いてある。

これを重点的に取り組もうということが書いてない、気になることだけが列記してあるように感じる。

方向性がよく分からない。

宗田会長

第2章が向日市をとりまく環境と課題となっていて、第3章がまちづくりの基本方針となっているので、課題というのは、必要がありますとうい表現ではなく取り組みますという踏み込んだ表現がよいのではないか。

岡　委員

総合計画で、こういうことを次にやりましょうということが出てくれば、積み上がっていくのでは。

宗田会長

たとえば、(1)の都市づくりの課題では、子供から高齢者まで様々な世代の人々が、安心して住み続けることができるまちづくりを進めていく必要があります。とあるが進めていきます。というようなトーンでも

いいのでは。

山口委員

課題ということで、現状とか過去とか具体的なのですが、目標設定すると目標を分担するためにどうするか、うまく整理する必要がある。

宗田会長

第3章の都市計画の目標のところが、短くてなっているので課題のところで目標を書いた方がいいのでないか。4のところはまちづくりの基本的課題といっているが、都市計画の転換の視点と向日市まちづくりの基本的課題、時代背景を受け継ぐ政策転換を課題として、個々に検討していこうということ。

宇野委員

目標の書き方の問題でないか。数値的な書き方もあるし、漠然とした書き方もある。目標の書き方なら、民間ならマンションを何戸建設しますとか、何パーセント目標達成したとかの書き方がある。

もう少し、わかりやすく数値的に書いた方が判りやすいのではないか。

宗田会長

確かに、目標のところが弱いように思うが。

鴨井担当課長

前回から引き続き、目次の中で第3章基本方針までを議論して頂いているところであります。

今後、第4章以降、整備方針・重点プロジェクトについても次回ぐらいからお願いしたいと考えている。第3章までは言葉的なものばかりで、目標が見えにくいのではないかと思います。第3章までのまとめ的なものは、第4章以降で具体的に出していったらどうかと考えています。

宗田会長

そもそも、第5章で出てくる重点プロジェクトとは、どういうものなのか。

鴨井担当課長

たとえば、都市軸の整備をどのように図っていくとか、北部の市街地、まちづくりをどのように図っていくのかとか、ハード的な問題は多くある。ソフト的なものについては、景観の問題とか、西ノ岡の丘陵地をどうしていくのかとかをプランでは検討の方針に従ってプロジェクトを変えて行こうと考えている。

宗田会長

特に、第5章では隠された我々の知らない大きな事業がある訳ではないのですね。つまり、1のまちの活力を創出する基盤づくりと都市軸・中心市街地それと北部の市街地整備の2つのゾーンをどうするかということと、2番目の自然環境の保全活用と緑景観については積極的な活用を図ることと、3つ目の安心・安全のまちづくりをするということだが、これはどういうことをやろうとしているのか。

鴨井担当課長

安心・安全のまちづくりについては、バリアフリー化の道路整備とか、耐震化事業とかを考えている。

宗田会長

都市計画マスタープランでいう、耐震というのはどういうことか。建築の耐震化なら判るが。

鴨井担当課長

JR向日町駅西口のバリアフリー整備とか、公共施設の耐震化と考えている。

宗田会長

防災拠点を作るという考えか。

宇野委員

耐震促進計画の中での既存建築物に対する耐震改修のことでないか。

三浦課長

安心安全な住環境づくりについては、バリアフリーとか雨水対策とか向日市が抱えている課題に対応すべき事業を展開していくこととして考えている。

岡﨑委員

森本町の浸水こととかも、ここに入ってくるのか。

三浦課長

当然、雨水対策として貯留槽の整備とかも行っているし、事業として重点プロジェクトとして整備していくことになる。

宗田会長

個別のプロジェクトとしてやっていくことと、都市計画としてやるべきことと両方含めることはかまわないが、都市計画として決めておかなければならない都市施設と土地利用というのが都市計画マスタープランの中心的なこと。都市施設と土地利用の部分で、その安心安全の課題があるはず。浸水というのが起こっているなら、下水道とか河川の都市施設部門でどうしていくのかとか、当面解決の目途がたたないのであれば、市街地の開発を抑制するとか、河川整備が終わるまで開発をしないとかが当然である。

三浦課長

今後の基本的な都市整備方針とか、方針に基づいた事業展開するとかの整理は今後の議論の中でお願いしたいと考えている。

宗田会長

それが、重点目標とすると、基本的には活力と保全活用と安心安全なまちづくりの3つですね、12ページの記述は内容的には対応している。12ページから14ページの課題の所では前向きに書いておいて、15ページの都市計画の目標のところで第5章にでてくる3つの方向を少し織り込んでおく必要がある。自然環境が弱いのと、安心安全のところ。

岡　委員

課題といっている限り、道路が舗装されるとかではなく、若年層を定着させるのが課題である。課題がわかりやすく見えてこないと、それに対する対応もわかりやすくできない。

何が課題であるかを課題として、市が認識しているかというはきちんと書いた方が良いかなと思う。前段のこんなことが予想されるとかは、前にも色々書いてある。どういう課題を認識していて、その課題に対応しようとしているのか。にぎわいがないのが課題であるし、そういう書き方ができないか。現実はともかく、将来はこういう風なことが必要だよということは書いてあるような課題に感じる。課題自体を直視していない。課題という割には、頭のタイトルの付け方もまちづくりが課題なのか、どうか。まちづくりが課題というのはおかしな様にも感じるが。

宗田会長

人口減少社会に対応する課題というのはありますね。2行目で言うと、今後は若年層の人口減の抑制を図る課題、子供から高齢者まで様々な世代の人々が住み続ける課題、この2つの課題に応じるような都市計画が必要ですと言っている。

その後に書き加えられている、都市整備の観点からすると量から質に転換して、若い子が住みたくなるようなまちを作らないといけない。高齢者が住み続けたたくなるまちにならないといけない。

金田委員

判りやすいのは、課題と目的というか、まちづくりが対応していると判りやすい。課題というのは、今、マイナスのことを言っているような気がする。演出するというのは、まだ、上のレベルの話かなと思う。

まちづくりの方は課題を解決するのは当然である。なおかつ、プラスの演出みたいなものをまとめて言っているのでないか。そういう考え方がわかりにくい。

対応はしていない、課題というのはマイナスのことであるから。

山口委員

問題があるから多少は健全にしましょう。健全になれば問題がある。二面性を書いたら良い。

宗田会長

若年層の人口減が今、どのような状態にあるのかということになる。結構、深刻なのか、それなりなのかということ。今のところ人口世帯数の推移を見ると比較的ここは、良い状況にあるのでないか。

三浦課長

他市と比べたら、それほど落ち込んでいない状態である。

岡　委員

若年層の人口減が課題である。それを課題として認識しているのであったら、それのためには、それに対して方針があって、方針の中に質のよい住宅を造るとか、教育環境を、自然環境を取り入れた子供を育てやすい環境づくりをするとか、色々方針として必要となる。たとえば、安心というのであれば、道が細いと言うのであれば、それを広げましょうという方針を出すのか、細い道を細い道なりに多く使えるようにネットワークで使いましょうという方針を出すのか、方針に違いを出してもいいのでないか。

向日市は、どのいう方針で行くのか。この課題のところで細かく書くより、その方針をきちんと方向付けする方が大事でないか。その方針を議論したいところである。

宗田会長

その方針は第4章の都市整備方針に出てきますし、3の住宅･住環境の整備方針のところで若年層の定住とか、あるいは安心安全のとかの候補が出てきます。それは、次回にするとして、ここでは課題をまず整理し、ちょっと踏み込んで若年層の定住には教育環境が重要であるというご指摘があった。

－他市の例を上げて議論－

和田委員

課題の部分に課題でないことが書いてあるということなので、もう少しはっきり内容を挙げる必要がある。一番最後のところで課題としての記述がなくなっている。

宇野委員

課題といいだしたら、一杯出てくる。大きなことから、小さなことまで、どれを優先順位にとるか、課題の中で整理する必要がある。道を広げてほしいというのも課題であるし、側溝を掃除してほしいというのも課題であるし、もっと大きな工場を持ってきてほしいというのも課題であるかもしれない。市民一人々が課題は持っておられるはず。それをどこまで書いて、どこまでやるか。書きだしたら、きりがないようになる。どこまで書くかというのが気になるところである。

山口委員

総計の基本的な部分になると思う。課題とは何か、というのを書いておく必要がある。向日市の基本的問題は何かというのが書いてあれば良い。

宗田会長

基本的には、今後、若年層の人口減の抑制を図るというのが課題である。子供から高齢者まで、様々な世代が安心して住み続けられる。住み続けるというのが課題である。ここに家を求めてくれる人がコンスタントにいないと日本全体の人口も減ってきますよということ。その課題は、はっきり書きましょう。

今までは、京都市を追っかけていればよかった、逆にゆとりを活かした京都市より質の高い向日市に

していくことが出来ないか、という知恵を出さないと人口は出ていく一方になる。歴史文化遺産を活かした、演出した個性、まちづくりについて投資してくれる人が欲しい。ここに、訪れてくれる人が必要である。都市づくり、まちづくりという言葉も取ってしまって、1は、人口減少社会における都市の課題となる。

岡　委員

もっと、歴史文化遺産を活かして近代的にも住みよいまちづくりが求められる。

宗田会長

歴史文化遺産を活かした都市計画に転換して、全国有数の歴史都市にしていくことが求められている。前にも言いましたが、長岡京市と向日市が一緒になって古都保存法の適用を受けて活かしていく方法もある。堂々と古都と書いてはどうか。

三浦課長

長岡京の都があった背景から強調して古都という意味です。

岡　委員

そういう直接的なことで古都として打ち出すのかと言うこと。

宗田委員

イメージとして言えば、東京に鎌倉があるように京都に向日市がある。だから、文人墨客は京都の喧噪を離れて、向日市に居を定める。向日文化人という人たちが将来、ここに住み着くイメージでいいのではないか。京都市の西京区になるが、桂坂の日本文化研究センターのイメージで、竹林の中に住まいがあり、向日文化人･向日文化村と呼ばれるようなイメージを。

和田委員

課題の所をもっと整理して、人口減少社会の都市づくりの課題とか、何々の課題とか。

三浦課長

項目のタイトルもはっきりした課題いうような、表現をするということですね。

宗田会長

前回は、抽象的な書き方であったがだいぶよくなった。

山口委員

演出の話ですけど、都市計画としては具体的でないかと思うんですね。

宗田会長

向日市は都市計画のエリアは小さくてやりやすい。

岸　部長

都市の舞台というのは、向日市全域を舞台にしてということなのか、それとも、もう少し絞り込んで向日神社や神社仏閣が集中している地域があるが、こういう地域を舞台にして新しい都市計画手法で何か、ＮＰＯとかの参画によって、今までと違ったハードではないソフト面での取り組みを段階的に進めていく方法を示していくべきだ。ということですね。向日市は全域に史跡が広がっているから、向日市域全体を舞台に考えよ。となると捕まえにくい。

宗田会長

それは、いくつかに分けて議論する必要がある。舞台というのは、人が集まって生き生きと活動する、最初はたぶん狭い建物があるとか、場所があるとか、観光客が集まるような場所とか、演劇とか芸術活動がおこるとか、アーティストがあつまるとかであって、決して都市の遠近ではない。日本の都市は整備されている。町並みがあるところでは既に舞台としての条件設定ができている。そうじゃないところの色々な形で舞台となり得るところ、町はずれの工業地帯だったところが芸術の場として再生するってことが

あったり、研究拠点となったり、これも一つの舞台となる。そうですから、今ある状況を上手に活かして、そこで何か演出して市民活動が起きることで都市は元気になって下さい。これからの公共事業で箱物を作って都市を限定することはしないので、知恵を出して演出して、ここをセットしてください。数多くの舞台を演出することが出来たまちが元気になる。それが根本的な考え方とすると、景観法なり、歴史まちづくり法なりを使ったエリアを舞台として考えるなら、限定して狭い所から始めるのが最初かもしれない、向日市の場合ならまち屋の3軒かも知れない。あるいは、お寺、池と森かも知れない、そういう所を繋ぐような、向日市はこういう街ですよというようなコンセプトを作りたい、そこはまだ舞台ではないが、コンセプトを作りましょう。それがたまたま西向日であったりすることであり、それを活かしながらその西の向日って言われたときに、そのことに対し色々なことや外側の周辺住宅地は今後、どういう整備をすればいいですか、というのを将来考える必要がある。ですから、拠点から徐々に広げてくるという考え方である。時間軸を設定して、どういうシナリオでどういう順番で作っていくかってことを都市マスで書いた方が良い。

岸　部長

そういう都市拠点というものを絞り込むことは大事と思っている。都市拠点といわれるものは沢山あるが、今回のマスタープランの中でご意見を頂戴して絞り込む中で具体的な方へ展開できればと考えている。我々もここは、というところについては歴史的面で言うと色々な場所が想定できる。向日市は都市の核というところが非常に多い、絞り込めないと言うよりも核が多いため難しいまちづくりをしなければならない。

宗田会長

部長の意見を確認しますと、前回の絵から変わって、この絵にはおっしゃったとおり歴史･資源エリアという形になって、地域拠点も2つある、原案としては踏み込んだ案となっている。地域拠点が3つ、都市拠点が2つ、健康拠点があるが、この中で歴史や地方の動向をイメージしているか想定してこのまちづくりの基本的ガイドに議論して欲しい。(2)に関しては議論しましたが、ちょっと保留しましょう。後、(3)(4)(5)(6)はいいですか。

岡　委員

キリンビール京都工場の跡地開発の記述ですが、そこをどうこうするというようなことはここで書くのではなくて、基本的な課題はそれが開発される、され方が必然だというふうに思われるような基本的な課題がここにあるはず。ここの土地をどうするかみたいなことはいらないのではないか。

宗田会長

ここまで具体的に書く必要はないと言うことですね。

岡　委員

考え方のみ提示することでよいのでないか。この場所、どうするということはさけた方がよい。

宗田会長

他に意見はありますか。

岡﨑委員

気になる面として、優先順位ですが、1番目が一番大事ということになっているのか。基本は人が集まって街ができるということで、私としては、5番目を結構重要と考えている。その中で歴史があったり、安心安全があったりと、その方に持って行ってはと思うのですが。人が沢山集まれば活力も出てきますし、何もかも盛り上がって良いようになってくる。人口が減れば街は寂れていくし、いかに地産地消をしてもらうために、どうするのかを課題として出していきたいと思うのですが。

宗田会長

言われる意味はよく判るのですが、国交省はこう言っているのですが、都市が人々の集積の場として機能する場合は、多数の人々の雇用が確保されるとともに都市としての魅力であり創造性を育む賑わいや交流が必要である。人口増加の時代には、人々が都市に集積しその課程で賑わいが創出される。しかし、今後、人口減少・高齢化が進展する中では、意図して賑わいを創出することが必要になる。

賑わいを創出する社会的・経済的・文化的活動の拠点を中心に若者・高齢者・障害者を問わず、だれもがこういう機会を得られるように公共交通等広く選択される。人口増加の時代には自然と強い所と弱い所がありましたが、今はそうではなくなっている。まず人口減少社会の都市づくりのことを書いて、この時代に賑わいを生み出すというのは難しいから。よい例として長浜や彦根のように歴史文化を活かした個性ある賑わいのまち、持続可能な社会を作っている。安心安全のまちを作っているとなって、最後に(5)番目の賑わいと活力を生み出すまちづくりとなる。(1)から(4)までを飛ばして、いきなり(5)を出してしまうと、それは重要だということで(4)の安心・安全になるし、いきなり(5)番目をだしてしまうと高度経済成長期のやり方に頭を取られてしまうことになる。こういうコンパクトでも賢いやり方で向日市は賑わいを生み出していきますよ。

岡﨑委員がおっしゃるように、固有の課題を出してしまうと今説明したコンセプトが消えてしまうので悔悟の階を踏むかも知れない。基礎的な話、17ページ以降の拠点の設定や軸の設定、エリアの設定など、上手に設定しておかないと賑わいはそんなに簡単に伸びてこない。現に、キリンビール跡地だって色々とご苦労されているようですが、ホテルはどこになるのとか、商業はどこが入るとかになる。

岡﨑委員

よく判りました。

宗田会長

向日市としては、既存の住民もおられるので中心都市軸の部分と新市街地の部分の連携をということになりますが、連携するには都市軸が重要なキーポイント。

和田委員

向日市は非常に狭い地域で限られた人が住んでおられるので賑わいを創出しよう、雇用を生み出そう、文化財を大事にしようとしても京都市のやり方、大阪の攻め方、他の所から沢山来て頂くような方法を考えていかなくてはいけない。駅をきれいにした、キリンの跡地にマンションが出来た、長岡京の文化財が出たといっても単独ではお客さんには来てもらえない。文化財を活かした、長岡京を活かした、古墳を活かしたとみんなそれを連携してやっていかないといけない。阪急の東向日・西向日駅については、バリアフリーにしようとしているので、向日町駅についてもそういうことが出来れば非常に安心して来て頂ける様になる。

宗田会長

ネットワークで人は集まらない。そこが弱いところ。長浜・彦根の事例をみると、黒壁という民間会社やキャッスルロードとか、4番町スクエアとか、何が起こったかというと商業投資が起こった。従来の中心市街地の一般の商店ははやらなくなっている。しかし、黒壁の周りだけは出店が多い。業種が古い商店街にあるおじいちゃん、おばあちゃんのお店は減ってくるけど、黒壁のキャッスルロード4番街には新規投資の若い連中の新しいお店が多い。古い時代の業種構成から新しい時代の業種構成に変わってきた。物販からサービスに店舗の構成がシフトしてきた。床屋から美容院に変わってくる、店舗も女性化の傾向がある。新しい投資が起こったことにより新陳代謝が進み、人が集まる。ここでも、黒壁効果があるような、ここだったらお店を出してもやりたいというような人が集まって来てくれる、飲食店とか増えてき

たら若い子がお客さんを積極的にお迎えしてくれる。そこに桂川駅周辺のキリンのお客さんが流れてくるような、ちょっと足を伸ばして買い物の帰りに向日市のお店で食事をして帰りましょうとかとなって、都市軸とかは生き返る可能性はある。

和田委員

魅力あるまちづくりをしないと、人はきてくれない。ネットワークだけではだめ、来たいと思うような店があれば良い。

山口委員

残念なことですが、大半の市民はこれで良いと思っている。賑わいのまちのイメージがピンとこないと思う。どんな街にしたいかというイメージが浮かんでこない。

岡﨑委員

賑わいとはどんなことかというと、今ある人口をまず、減らさないようにする工夫と、人口を増やすためには子供を作りやすい市の助成とか、保育園へ全員が入れるような、向日市に住んでいる人の雇用を守れるようなまちづくりが大切と考えている。山口委員がおっしゃったことを向日市に住んでいる人は、大事なことが判っていないように感じる。

宗田会長

東向日周辺から店舗は確実に減っている。買い物ができる店が減って、東向日の市民の消費生活を支えている環境は悪くなっている。美容院をとっても、向日市の美容院は減っている。みんな、阪急に乗って四条まで行っている。昔は主婦が多かったから、家の近所の美容院を利用していた。これだけ働く女性が増えてしまったら、みんな勤め帰りに都心の美容院に行ってしまう。向日市で生活している人にとっては、住みにくくなっている。年寄りの方も都心のマンションが良いかなということで引っ越してしまうことになる。じわじわと目に見えないところで進行している。昔のように阪急の駅の近所に工場があって、商店街があって、そこですべて買い物ができるというような30年前の暮らしと、今とでは、だいぶ違ってきている。スーパーからすぐ近くの独身の方と10分・15分かかるお年寄りの方の生活ではだいぶ差がある。魅力的な外食が出来る店もない、あと10年、20年経てば住宅地としては不備となる。

岡﨑委員

外からの観光客がそこまで来てくれるのか疑問。時間的にも、カフェが出来るなど賑わいが出るまで待てるのか。

宗田会長

すぐには、無理。これから、10年ぐらいの間に5～6店舗も出来ればいいかも。長浜でも25年やって、あそこまでの賑わいになっている。今、東向日ではお店がどんどん潰れている状況でプラスに転じるのはすごく大きなオペレーションである。仮に東向日でテナント料が下がる、地価が下がる状況で東向日に新たに店を開こうとするのは、パチンコ店とか、ファーストフード店しかないのではないか。そこを工夫しないと、賑わい賑わいと言っても急には、容積率を高くするぐらいでは出てこない。その戦略は、どこかで作っておかないといけない。人口減少社会の中で一定数の店舗を確保していくのは厳しい。

和田委員

人が来てもらうための政策をやっていかないと、向日市はゴーストタウンになってしまう。今、東向日からJR向日町駅にかけて少ないが新たな店舗があり新たな店は流行っている。なぜかというと、違う観点で、ここであれば商売できる、まだ、いける、ということで新規開店される。この様な考えの基、来られているのでもう少し、人が訪れるように道路を整備したいところである。一番、今、向日市がしていかなければならないのは、京都で一番古いJRの駅である向日町駅が西側しか開いていない。東も開けること

によりずいぶん違う。朝の1分1秒争う通勤時には効果的。向日町駅東口を開ければ、桂川駅のまだ東側から利用者が来られる。阪急も少し歩けば東向日があるから、これは考えないといけない。人が歩くことにより商店街が再び発展する可能性がある。また、核の問題もあるが賑わいが生まれることによる雇用を生み出すことになる。

山口委員

向日市のまちづくりの目標については、美しいまちを作る。この1点以外にないのでは。都市計画マスタープランにも美しいまちを作ろうと、そういう美しいまちであれば魅力がありますから、それなりの展開が見込める。今の向日市は美しくない。あらゆることについて、美しいかどうかで判断する。そういう手法でやって、後の細かいことはどうにでもなる。とにかく美しいまちを作ろう。

和田委員

景観というのは大事です。

岡　委員

景観となると難しくなってくる。観てきれいだけでいいと思う。

宗田会長

商業者が競ってきれいな店を作った。商業者が自覚して自分の店をきれいに飾ろうと思うことと、町並みを美しく演出していくってことが一致しない限り、都市の美しさはあり得ない。京都での町並みを研究すると町屋レストランとか、長浜とか、彦根とかでは美しい町には美しく自分の店を演出する個性的な仕事をする商業者が集まってくる。イタリアでは集まってきた人が町並みを保存してくれている。文化庁の建造物課では思いつかないようなおもしろい町並みになる。文化庁に任したガイドラインで建築をやると無茶苦茶になってしまう。京都の町屋レストランとかで何もかかっていないところで、勝手にやれというとすごくおしゃれな店が沢山出てくる。彼らがまちを演出してくれる。

和田委員

今まで、気がつかなかったことが最近どんどん起こる。向日市の中央商店街の中でも、我々が思いもつかなかったマンションができた。この地域では容積率が300％であった。マンションを建てるために容積を300％にした訳ではなく商店街を生き生きとしょう、賑わいを出そうということで300％にしたことが仇になってしまった。気がついたらマンションということになってしまった。そういうことが無いように、きちっと検討したい。

宗田会長

全国の近隣商業はひどい目にあっている。近隣商業は商業でなく、中高層住居専用地域より有利、マンションがやすくできるようになっている。都市計画で規制されている容積率と実行容積率との間には250％以上の差がある。バラバラに建築物が建つのは当たり前、それぐらい規制が緩い。

和田委員

メリハリある土地利用を進めたい、西向日の近くで4，500㎡程の公園を確保したところもある。それも木を植えて、桜の木を配置していく予定である。

宗田会長

あのマンションの住民は車で買い物に行かれるのでないか。歩いて買い物には行かないのではないか。平日は、都心のスーパーで買い物をし、休日は郊外の大型スーパーでまとめて買い出しをする住民が多い。京都の都心、中京区の住民の例で言えば、そういう例が多い。マンションの住民はそういう人が多い。だから近所の一戸建て住宅に住んでいる奥さんが近所の商店街に一日おきに買い物に行ってくれるような住民ではなくなっている。だから、色々な交通量が発生した。

岡　委員

市民の方には歩いて欲しいなという思いがあります。歩いて暮らせるというのを共通の課題として、車で行くネットワークと歩いて行くネットワークは全然違う。西向日駅の近くには遺跡があって、あのようなすばらしいところはない。残っている良い所をきちんと守ることをして欲しい。

宗田会長

向日市は、歩いて暮らせるまちであった。東向日･西向日からは自分の家までは歩いて帰れるけど、途中に花が咲いているところとか、シャレた家があったりとか、結構そういうところはあるが、肝心の買い物が出来るところが減っている。通勤している人は今でも歩いているが、買い物は車を使うようになっている。公共交通のバスと一緒で歩いているのはお年寄り･通勤･通学･となっている。

和田委員

以前の暮らしから、テンポがずれてきている。

宗田会長

周辺の店舗は、都心の店舗に負けている、せめて外食するところは地元においておかないと、交流すら生まれず賑わいも生まれない。気がついたら、中高年しか居ないような状態となる。働く主婦はみんな都心に行く。

山口委員

神楽坂はそういう町中のにぎわいの工夫をしている。観光化する戦略をとるかどうかということ。向日市は普通のまちにない資源を持っている。

宗田会長

中心都市軸のところにお店が出来る、頑張ってくれるパン屋さんやケーキ屋さんがあってもいいが、路地の中に3～4坪の小さな店があってそこに行くと誰か知り合いが居て、晩ご飯も食べられるし、ちょっと一杯もできる、誰かが必ず集まっているような店が求められている。

岡﨑委員

皆さんとは、違う意見となるかも知れませんが、規制の厳しいのはあまり賛成できない。外食とかは確かに国道沿いの店を利用したりして、近所の店を利用していないが、それは近くにいい店が無かったり小さい子供連れなら広い店や大きなスーパーで品物の多いところを利用するのが現状である。年を取れば又変わるかも知れないが。共働きでは路地を歩いていい店を探すような余裕がない。路地の店は流行るか疑問である。

岡　委員

市場が若い人になぜ人気があるかといえば、子供連れの人たちは市場に行って買い物を子供に体験させたい、おっちゃんと話をしながら買い物をさせたい人がいる。そういう場所が子育てに良いと思っている人が結構多い。

山口委員

ファミレスには店員がいない、市街地の中の店を全部そうする必要はない。すみ分けすればいい。

岡﨑委員

もう1点、住宅の規制ですが、増改築してお住まいの住居については目に余る所がある、色々な規制を守ることがきれいなまちに繋がるはず。

宗田会長

京都は景観等で建築行為に対する規制が厳しくなってきた、増改築する場合はなれた工務店なり、設計事務所に頼むのが地域の規制にあった設計なり、施工が出来るのでは。だから、ある程度の規制

は必要だと思う。先ほどのマンションの話ではないが、ルールがないままだと、その人は良かっても周りに多大な迷惑をかけることもある。時間も迫ってきたので、都市計画の軸の考え方についてですがもう少し議論をお願いしたいと思います。前回、ゾーンというのはあまり意味がないという意見もありましたが。

金田委員

さっきから議論された道路というのは大事なことと考えている。いい環境を作るためには、ルール作りよりも軸とかゾーンがあった方がいいのではないかと考えている。

岡　委員

それは、計画としてどのように考えているかということですか。

金田委員

10年という一つの中で検討していける内容かなと考えている。何が何でもこれでないとだめと言うことではない。

宗田会長

変更は常にありと言うことですね。ゾーンは丘陵緑地ゾーン･田園緑地ゾーン･住居地ゾーン･生活産業ゾーン･新市街地ゾーンとあるが、基本的にはそこは住居地ゾーンとして住居系の施設が占めることになる、丘陵緑地と田園緑地も緑地系で2つある、産業ゾーンと新市街地ゾーンとあるが産業ゾーンは外すとして、新市街地ゾーンも未確定な部分があるので外してはどうか。基本的にはこの2つに分けて、住居系と緑地系に分けて住宅地を守っていこうというスタンス。それから、今回新たに歴史資源エリアというのができたのですが。

三浦課長

このエリアを設定したのは歴史とか史跡が集積している所をエリアとして設定した。

宗田会長

歴史文化拠点と言うことですね。

山口委員

歴史文化エリアとういのはおかしい。

三浦課長

エリアの中には向日神社とか、長岡京の大極殿跡とか、そういった歴史的な遺跡が集積している箇所である。

宗田会長

ということは、大極殿地域とかにはならないか。

三浦課長

大極殿跡もあれば朝堂院跡もある。

宗田会長

長岡京の中心であったのですね。さっきの話にもあったように、長岡京市ではなく向日市に長岡京の中心があったということを言う方がいいのでは。長岡京の歴史は向日市にありますということをアピールする方が良い。

金田委員

向日市には長岡京の大極殿があったが、長岡京市が長岡京という名前のため、知らない人はなかなか判ってくれない。

和田委員

長岡京市というのは元々、3つの村（神足村・海印寺村・乙訓村）が長岡町となり、長岡京市になった。

岡　委員

都市構造図の中にこれがあるということを、事実をノックすることが大事でないか。

エリアではなく、ここにあるということを。

田村次長

このエリアの中には、1つは長岡京の時代のものと、中世の豊臣秀吉なり西国街道、向日神社の2つの時代ことをエリアとして記載している。長岡京の時代のものだけとなると東の方になる。

宗田会長

1つの図でかかれる楕円の中には長岡京も入るし、西国街道も通るし、ただの畑や田んぼでないことをアピールした方が有利でないか。

山口委員

違うのです。向日神社は精神的支柱なのです。

宇野委員

向日神社は結構、歴史があります。地元の人が言われるのでは、こちらの方が、歴史があるように言われている。

山口委員

地元の人は長岡京跡のことはあまり言われない。

宇野委員

向日神社の本殿の形を模写して、明治神宮が建てられた。

宗田会長

向日神社の方が長岡京より古いのか。

宇野委員

確か、西暦７１０何年ぐらいではないか。

金田委員

長岡京は７８４年であり向日神社の方が古い。

宗田会長

向日神社を都市構造図に書き込んではどうか。

三浦課長

具体的な整備方針の中には、個別の名称や箇所を表すことがあるが都市像に固有名詞で表現するのはどうかと考えるが。

宗田会長

都市構造図に固有名詞があるのも面白いのではないか。歴史保存エリアで守るべきものが判りやすい。向日市民の方が向日神社にこだわりがあるのなら、この地域にマンションはまずいなという考え方も出来る。都市拠点と地域拠点については整備するのか。

田村次長

整備するところと既に出来ているところのことです。

宗田会長

健康拠点とは何のことか。

三浦課長

体育館とかプールとか、健康センターとか市の施設が集まっている所です。

宗田会長

さっきの、3つの重点事業からすると、どういう考えなのか。

三浦課長

将来的には、より充実した施設としたい考えもある。

宗田会長

健康拠点はいらないのかも。

岡　委員

皆が歩いて健康拠点に行くのなら、道が出来るのなら書く必要があるかも知れないが、今、既にある所を書くというのが寂しい。

和田委員

今、3つの施設があるが、スポーツ振興計画の中で新たなスポーツの振興を検討するような項目はある。

ここは、JR 向日町駅から近いが東口がないことから、何とかという声もあるし、将来的にはきちっと整備していかなければと思っている。

宗田会長

JR向日町駅、東口は整備するのか。むしろそれは、書きましょう。 これだけ共通して強くアピールするようにして、また、何もしないなら書いておくと整備しろと言うことになる。スポーツ事業についても、少しでも余裕があれば作ってもらいたい要望もあるし、予算がないことやスポーツ重点主義でなくて、市民健康主義になっているので環境を整備しろと言うことになる。地域拠点はこれでいいのか。

三浦課長

地域拠点については、1つは駅として西向日、西側には京都府の施設である振興局はじめ、警察、郵便局など公共施設があります。その上の地域拠点につては市役所、市民会館、図書館などの人が集まる施設を地域拠点として設定している。

宗田会長

これからの整備方針の中で何かをするのかといわれたら、公共サービス事業等の充実を図りますとあるが、意味があるのか。

三浦課長

整備を進めるというのではなくて、今の施設の充実を図るとことになる。

宗田会長

位置づけるとか、整備を図ると書いてあるが、「なってます」と言うことですね。都市構造の拠点というのは現実の拠点を認定しているので、唯一、整備を図るとなるところは都市拠点のJR向日町駅のところの充実を図るのが都市整備となる。むしろ、どう結ぶかというのが都市計画マスタープランの重点があるのでないか。中心都市軸、これが都市マスにとって一番重要な課題でないか、新市街地に匹敵するぐらい。

軸については歴史文化健康軸については何をしようというのか。

三浦課長

歴史文化健康軸については、丘陵緑地ゾーンの中に竹の径とか、散策できるような道がある他、向日神社･大極殿に繋がる史跡のネットワークを作って、整備していく必要があると考えて歴史文化健康軸として設定している。

宗田会長

これも書いて、18ページの枠の中に書いてある説明のように、将来、自然環境の保全活用と歴史文化ゾーンを結ぶようなことを書いていってはどうか。産業軸はこれから整備していこうということでよいのか。

三浦課長

国道171号線を中心とした区域の中で流通産業等が張り付いているが、残っている農地の中で基盤整備を整え、工場誘致に持って行きたい考えである。

宗田会長

あまり現実的でないですね。副市長が言われたように、向日町駅の東口を整備し、京都市側から賑わいを誘導しようとしても、171号で京都市と分断されている。京都市側から観れば名神とか新幹線のバリアーがなければ、景色としても山並みも見えるし、もっと向日市に来るものがあるだろう。中心都市軸を繁栄させるためにJR向日町駅の東口を開設させるのなら、産業軸を前面に出さない方がよいのでは。

和田委員

この図は、前回の都市マスで入れている図で早期実現には難しい部分があった。向日町駅の東側が京都市となるので、東口の関係では京都市と話をしかけている。

京都市との話がつかないと絵に描いた餅になる。

田村次長

向日町駅の東口を開けるにあたりましては、産業ゾーンの中に工場と企業を誘致してという作戦で東口を開けようとしている。今、これからの事業の進め方として、産業ゾーンについて触れないというより出来るだけ産業ゾーンに触れて、産業ゾーンの充実を図りたいと考えている。

宗田会長

冒頭から、そのことについては言っているが地価が高い。工場誘致をするときには、地価が高いところは不利。もっと、安いところでやるべき。住宅として売れる所である。地権者にしてみれば。アクセスもそれなりにいいところなので、住宅と産業、工場じゃなくて研究拠点とか、もう少し高度なアクセスがいい、京都に近いからこれくらいのことでもやるというような、だだの工場じゃないものを考えないと。高度集積地区に対抗するような、西側のハイテックなパークとかの土地利用を考えてもらわないといけない。産業軸の表現を考えてください。

岡　委員

沿道サービス軸とは。

三浦課長

市内で整備されている都市計画道路の久世北茶屋線沿道の土地利用を図って行くという中で設定をしている。

田村次長

沿道産業軸については、一定、道路拡幅は終わっている箇所である。

岡　委員

沿道支援とは何か。

岸　部長

沿道支援策として、どういうものを誘導するか、具体策はまだ、未検討である。

幹線道路を整備したことにより、民間でここに張り付いてくるもの、整備することにより張り付いてくるようにしたいと言うことである。

岡　委員

どこにでもある道では困る。

宗田会長

拠点と軸、ゾーンについては、概ねこの3つがあるということでいいですか。表現は多少変えるとして。

三浦課長

表現については検討します。

宗田会長

課題の所については、岡委員から指摘のあったところを整理してください。都市計画の目標の所に美しいという表現を追加して、重点プロジェクトに係るような3つの項目を上げて、目標がいいか、都市計画の視点が良いかは検討してください。産業軸については、第4章の整備方針を見ながら検討していくこととしましょう。

岸　部長

事前にお送りさせて頂くようにします。

宗田会長

次回、まちづくり審議会は5月25日（月）の予定で開催します。(その後日程変更し5月27日(水)で確認された。)

以上